

商務印書館「英漢字典」の系譜

内 田 慶 市

0. は じ め に

——「中国近代語研究」における「英華字典」の位置——

「中国近代語」¹⁾の研究において、とりわけアヘン戦争、南京条約を境にしての「西学東漸」の大きな潮流と言語との関係、すなわち東西の「言語・文化の接触と交流」を見る上で、いわゆる「欧文資料」（たとえば主に欧米人、宣教師の手になる「漢訳聖書」「漢語課本」「翻訳書」など）の有効性については、これまで機会があるごとにしばしば述べてきたところである。

ところで、特に「近代語彙の成立」（当然、現代語語彙との連関・継続性・非継続性といったことも念頭におきながら）、特に「西学東漸」による「新しい事物・概念」に対する「新しい語彙」の生成と発展という面に論点を絞った場合、そこで第一に重要な資料は「英華字典」の類であろう。（「英華」のみならず「法華」「徳華」など「外国語—中国語字典」はすべてこの中に含まれてくる）

さて、「英華字典」の最初はロバート・モリソンによるものである（1815—1823）ことは周知のことであり、その後、メドハースト、ロブシャイドなど欧米宣教師による「英華字典」が陸続と出版されている。（この完全な目録作成も急務であろう）これらは当時の中国語語彙を知る上で貴重なものであることは今更言うまでもないことであるが、ただ、これらの字典の編纂の目的が「外国人が中国語を学ぶためのもの」であり、何よりも編者は中国語のネイティブではないことを忘れてはならない。彼らはもちろん一流の「言語学者」でもあり、その中国語にも極めて信頼のおけるものであったし、また外国人だからこ

そ中国語を客観的に捉えて記述したり、「新しい事物・概念」に対して「新しい語彙」を作りだすことも出来たということも言えるのであるが、一方で、ではそのような「新しい語彙」を中国人がどのように「受容」し「選択」し「定着」させていったのかを見る場合、「中国人の手になる」「英華字典」の可能性というものが浮かび上がってくるのである。（「中国人の手になる」資料ということから言えば、「英華字典」の他に、「旅行記（外遊記）」「出使記」なども見過ごすことは出来ないものであろう）

また、「新しい語彙」という場合、当然ながら「日本語借用語」の問題も深く関わってくることになる。

本稿では以下試みに「中国人編集の英華字典の流れ—商務印書館英華字典の系譜」と若干の語彙についてその「生成と定着度」に関して述べてみたい。

1. Morison の『五車韻府』の翻刻（1879）

中国人の編纂による「英華字典」が出版される以前に実はモリソンの英華字典が點石齋から「写真印刷」で出版されている。私の手元にあるのは『五車韻府』（華英）だけであるが、以下に示すように、その序文によれば、それ以前に「英華字典」も出版されたようである。

〔五車韻府序〕

中国が税関を置き、ヨーロッパ各国と通商を始めてからすでに数十年以上になるが、その間に人材は多く生まれ、西学を探求するものも枚挙にいとまがない。が、しかし、西学を究める場合、もし両国の言語の字典をひもとかなければ、学問は深めることはできないし文章も的を得ることはできないのである。ただ、惜しむらくはこれまで字典の価格が極めて高く、1冊購入するのに十数金も必要であり、読者にとっては、いつやそれが妨げとなっていた。弊社はこれを深く痛み、今春、コストを省みずここに英華字典一部を影印し五角で売り出したところ、購買者は後を絶たず、広く賞賛を得たのである。しかし、この字典は英語を中国語に翻訳したものにすぎなかった。そこで、再び五車韻府、すなわち中国語を英語に訳した字



商務印書館「英漢字典」の系譜（内田）

典を引き続き発行することとした。かくして（英漢・漢英）形が整ったことになり、値段も極めて廉価である。……多くの西学士の一助たらんことを。

光緒5年十月十六日 點石齋主人記

なお、この『五車韻府』では、検字の方法もこれまでの中国の字典のような「部首引き」ではなく、現在の英華字典のような「音引き」も採用されている。以下の如くである。

〔検字の方法〕

簡便をもととす。たとえば「譜」の字は目録の「言部」の十二画にあるが、その傍注の英字の音は「Poo」である。すなわち、このようにして探していけば「譜」に対応する英語がわかるのである。たとえば、「浦」は目録の「水部」の七画で、そこの英字の音もまた「Poo」である。とすれば「譜」と「浦」はいずれも「Poo」類にあることになる。また「五」は「二部」の二画、「件」は「人部」の四画であるが、その音はいずれも「Woo」となっている。（中略）英国人と会話して、すぐさま口に出して言えなくてもこの書を引っぱり出して示せば、両者とも意を悟ることが出来るとは何と愉快なことではないか。

2. 商務印書館の英華字典の系譜

西学の探求、それに伴う「英語」学習の需要（この時代もやはり「国際共通語」は「英語」であったのだ）が高まるにつれ、「中国人が英語を学ぶための辞書」やテキストの編纂が急務となってくる。この任務を背負って立ったのが「商務印書館」である。

商務印書館の創設は1897年2月1日（光緒23年旧暦正月初十）である。創設者は夏瑞芳、鮑威思、鮑武昌、高鳳池の4名である。彼らはみな基督教長老会の「清心堂」に学び²⁾、英文の活字技術を会得し、前後して「字林西報」「捷報」館³⁾で活字工につき、その後各1000元を持ち寄って資金として「商務印書館」を設立したのである。彼らの最初の出版物は1898年の『華英初階』『華英

進階』(謝洪寶牧師による)という英国人の編纂したインド人の為の「英語読本」の翻訳・注解である。その後、1902年に南洋公学から張元濟(菊生)が編訳所所長として加わることになる。

以下、特に解放前までに商務印書館から出版された英華字典を『商務印書館出版中外文辭書目録—1897—1963』(内部参考、出版年不詳、以下『目録』と略称)、汪家燭「清末至解放初的英漢詞典」(1993)および最近収集したり、実際に現物を見たものを参考にしながら年代順に一覧しておく。

[商務印書館主要英漢字典一覽(年代順)]

- | | | | |
|-------|--------------|----------------|------------|
| 1899 | 商務書館華英字典 | 鄭其照 | |
| 1902 | 商務書館華英音韻字典集成 | 企英譯書館 | |
| 1903 | 商務書館華英字典 | 鄭其照編 顏惠慶・王佐廷訂正 | |
| 1904 | 袖珍英華字典 | 吳治儉/胡貽穀 | |
| 1904 | 商務書館袖珍華英字典 | 吳治儉 | |
| 1907 | 商務書館華英新字典 | 郁德基 | |
| 1908 | 英華大辭典 | 顏惠慶 | |
| ✓1911 | 新訂英漢辭典 | 本館 | |
| ✓1912 | 英語歧字辨異 | 周越然 | |
| 1912 | 增訂漢英辭典 | 張在新 | |
| 1914 | 增廣英華新字典 | 郁德基 | |
| 1915 | 增訂英華合解辭彙 | 翁良/楊士熙 | |
| 1915 | 英漢新字彙 | 李文彬 | |
| 1915 | 英華日用字典 | 徐善祥 | |
| 1916 | 英華合解袖珍新字典 | 郁德基 | |
| 1918 | 漢英新辭典(縮本)X | 李玉汶 | (4冊) 12月3日 |
| 1921 | 懷中英漢字典 | 本館 | |
| 1922 | 寸半小本英漢字典 | 張世鑾/陸學煥 | |
| 1923 | 英漢雙解韋氏大學字典 | 郭秉文/張世鑾 | |
| 1927 | 綜合英漢大辭典 | 黃士復/江綴主 | |
| ✓1928 | 雙解標準英漢字典 | 吳康/陳建民/厲志雲/陸學煥 | |
| 1928 | 標準初級英漢字典 | 陸學煥 | |
| 1929 | 求解作文兩用英漢模範字典 | 張世鑾/平海瀾等 | |
| 1929 | 雙解標準英文俚語辭典 | 翁文瀾 | |
| 1933 | 英漢雙解詳註略語辭典 | 倪頌森 | |
| 1935 | 英華大辭典(縮本) | 顏惠慶 | |

商務印書館「英漢字典」の系譜（内田）

1935	雙解實用英漢字典	李登輝／郭秉文／李培恩
1936	初中英漢字典	王學文
1937	精撰英漢字典	任充四
1946	英漢雙解分類美國俗語辭典	李香谷
1946	現代漢英辭典	王學哲

上記の字典のうち、いくつか重要と思われるものについて若干の説明を加えておく。

① 『商務書館華英字典』（1899）

英文タイトルは「Commercial Press English and Chinese Dictionary」。編者は鄧其照で、商務印書館最初の英華字典である。

汪（1993）によれば「南方で中国人（鄧其照）の手になる最初の英華字典が1873—1875に香港中華印務総局から出版された」とあり、また、後述の『商務書館華英音韻字典集成』（1902）の跋復の序に「尚憶三十年以往、不佞初學英文時、堂館所頒、獨有廣州一種、寥落數百千言、而義不備具」とあるのがそれを指すと思われるが、本書は汪（1993）ではその「修訂増補版」であり、「約40,000字を収める」とする。

ただ、この汪の記述には若干の疑問も残る。つまり、1899年のこの字典が1870年代に出版されたものをそのまま復刻したものか、或いは、修訂増補版かという点である。現物を未見のため何とも言い難いところであるが、『目録』では1903版を増補版として「20,000字を増やした」とあり、架蔵の『商務書館華英字典』（1909年出版）の奥付けでは「光緒29年（1903）初版」とあるからである。また1909年版に付けられている「光緒32年（1906）」の「重訂商務書館華英字典序」には「本館ではかつて華英字典を編集し、好評を博したが、今回再び顧、王兩先生をお願いして再度、訂正かつ増補を行った」とあるのを見ると、1903年に最初の修訂増補が行われ、1906年にさらに重訂が行われたと見るのが妥当なように思われるのである。

② 『商務書館華英音韻字典集成』（1902）

英文タイトルは「the Commercial Press English and Chinese Pro-

nouncing Dictionary」。編者名は明記されていないが、汪によれば巻末に「華英地名録」を作ったと名前の上がっている謝洪賚であるとされている。跋復, Timothy Richard (李提摩太), Ku Hung-Ming (辜鴻銘), Silsby の序が付され、本文1835p. 100,000項目を取める。

ナッタール、ロブシャイド、ウェブスターを元にし(特にロブシャイド)、さらに日本の字典からも補っている。

なお、「音韻」という書名については、いわゆる「正音」のことであり、跋復も「審音」ぐらいが適当であると述べている。

③ 『袖珍英華字典』(1904)

英文タイトルは「Commercial Press English and Chinese Pronouncing Pocket Dictionary」とあるように②のポケット版である。

跋復, W. W. Yen (顔惠慶) の序あり。編者の呉は南洋公学の人。

④ 『商務書館華英新字典』(1907)

「Commercial Press English and Chinese Pronouncing Condensed」

『商務書館華英字典』の改訂版とでも言うべきもので、1907年に出版、その後1914年にその増補版である『増廣英華新字典』が出版された。1907年のものは「全書凡七萬言」とあり、増補版で2,000字余りが削除されたが、その分を新たに新聞、雑誌などの常用語を取めて約70,000とした。

「Webster's International Dictionary」と「a Modern Dictionary」によっている。なお、増補版では下記の『英華大辭典』をも参考にしている。

⑤ 『英華大辭典』(1908)

英文タイトルは「an English and Chinese Standard Dictionary」。跋復, Pott の序あり。約3,000p. 約120,000字を取める。

ナッタールの「Nutteall's Dictionary」を元に、「Webster's International Dictionary」で補充したもの。(最初の手定ではウェブスター大辭典を稿本にしようとしたが、大部すぎるし、値段が高くなりすぎるという点から取り止めたとある) また日本の「英和辭典」も参考にしたとある。さらに

参考にした書物は「数十百種」を下らず、その中には「中国教育会」のもの、「江南製造局」のものなどがあるという。

顔惠慶を中心に、St. John's College（上海約翰書院）Queen's College（香港皇仁書院）の16名が編集に参加した。

当時の状況について「我華科擧、尚屬幼稚時代、一切名辭、未經審定者強半」と言い、訳語に苦勞したことがうかがわれる。また、「書面語」と「口頭語」の違い、訳の「雅俗」についても序で触れたりしている。

以上のもの、さらにそれ以降の字典はほぼ「Webster」を元としているのがその特徴である。『英漢雙解韋氏大學字典』⁴⁾(1923)などはその「究め付け」であり、Webster の全訳である。

そのような状況の中で次の字典は一つの時代を画すものである。

⑥ 『綜合英漢大辭典』(1927)

「a Comprehensive English-Chinese Dictionary」

序に次のように言う。

これまでの字典は一つの字典をよりどころにしてきている。確かに体系の異なる字典を「綜合」するのは難しいことだが、それにしてもこれまでは皆 Webster に依ってきた。しかし、Century Dictionary もあれば Standard Dictionary もあるのである。更には Oxford 大字典もあれば、Oxford 簡明字典もあるのである。これらの英米各字典の優れた点を「綜合」させて現代の需要に応えるべきなのである。

かくして、6—7年の時間と数十人が参加して、この字典が生まれたわけである。

「the Concise Oxford Dictionary」「Webster's Collegiate Dictionary」「Funks & Wagnall's Practical Standard Dictionary」を中心に、さらに「the Oxford Dictionary」「Webster's New International Dictionary」「Funks & Wagnall's New Standard Dictionary」「the Century Dictionary and Cyclopaedia」で補充し、また日本の齋藤秀三郎の『英和中辭典』

『日本模範新英和大辭典』、『井上英和大辭典』をも参照している。特に、日本の辞典については「模範大辭典」の「注が簡潔」「學術用語」が豊富ということ、井上の「解釈が精密であり、特殊慣用語が豊富」ということ、斎藤の「単語、連語の意味の連関性」に優れた点から採用したと述べられている。

1696p. 正編と付録の部分の2冊に分かれ、正編では約110,000項目の単語、連語、また外来語約3,000、成語約7,400、例文約60,000、また図表なども収められている。付録の分冊には地名人名の音訳約9,400、略語約2,700、また不規則動詞表なども収められている。なお、1948年に増補版が出され、現在もまだ香港などで版を重ねている。

以上、簡単に商務印書館の英華字典の系譜を眺めてきたが、今後更に詳しい調査を進めていくつもりである。

3. 若干の語彙について

「英華字典」の「序文」や「編集大綱」「例言」などを読むと、彼らが「訳語」特に「新しい事物・概念」に対する訳語について非常に気を配っていたことがわかる⁹⁾。つまり、彼らの採用した「訳語」は信頼するに足りうるものであると考えられる。

従って、「英華字典」の訳語を丹念に調査していくことによって、その語が中国語の中で、いつ頃使われ、定着していったか（或いは淘汰されたか）が有る程度見て取ることができると思われる。

また、商務印書館の「英華字典」が出版された時代は、「日本語借用語」が大量に輸入された時代と重なっているところから、いわゆる「日本語借用語」の研究、ひいては「中国語外来語研究」にも有用であろう。

たとえば、一例を示せば、現代中国の主要な交通手段、「あし」と言えば誰でも知っているとおりの「自転車」であり、中国語では「自行車」¹⁰⁾と言うが、この言葉は実は意外と新しいようである。17世紀後半に著わされた『諸器図説』という本には「自行車」という語が見えるが、その意味はいわゆる「自動車」

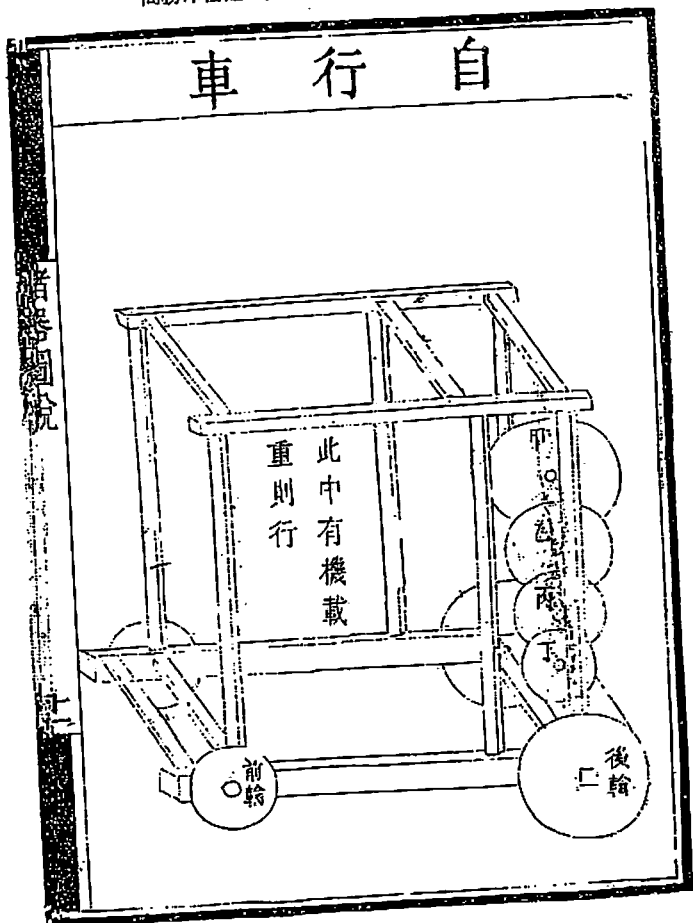


図1

の意味である。(図1)

今回、商務印書館の「英華字典」を調べた限りでは「自行車」は現れてはこない。「脚踏車」「自由車」が採用されており、「自転車」という恐らく日本語からの借用語も見えている。「自転車」が採用されているのは『綜合英漢大辭典』であり、確かにこの字典が日本の英和辞典類から多く参照したことが証明されるのである。

今回附表で取り上げて見た語彙は極めて「恣意的」であるが、なにがしかの

附表

商務印書館「英華辭典」語彙對照表

語彙	Lob66-69	音韻1902	袖珍1904	新字典1907	大辭典1908	合解1915	懷中1921	Web1923	綜合1927	模範1929	初中1936
beer (A)	麥酒	啤酒、大麥酒 麥酒	啤酒、 大麥酒	啤酒、 大麥酒	啤酒、大麥酒 麥酒	啤酒、麥酒	啤酒、麥酒	啤酒、麥酒	啤酒、麥酒	啤酒、麥酒	啤酒、麥酒
bread		面包、饅頭 糧、食物、飯	面包、饅頭 食料、糧食	面包、饅頭 食料、糧食	面包、饅頭 糧食、食品、飯食	面包、饅頭	面包	面包、糧食 (面食)	面包	面包	面包
butter		乳油、奶油	乳油、奶油	乳油、奶油	乳油、奶油	牛酪油、 奶油	乳酪、奶油	牛奶油	牛酪、乳油	牛奶油	牛油、牛酪
photograph/ picture		影相、小照、照 相、攝影、照像	照相、小照	影相、照片 照相、攝影	写真、照片 影相、相片、小照	照片、 写真書	影片、相片	照相、影片 相片	相片、影片 照片		照片、攝影
telescope		千里鏡、 遠鏡	千里鏡、 遠鏡	望遠鏡、 千里鏡	望遠鏡、 千里鏡	望遠鏡、 千里鏡	望遠鏡、 千里鏡	望遠鏡	望遠鏡、 千里鏡	望遠鏡	望遠鏡
microscope		顯微鏡	顯微鏡	顯微鏡 測微鏡	顯微鏡 測微鏡	顯微鏡	顯微鏡 測微鏡	顯微鏡	顯微鏡	顯微鏡	顯微鏡
watch		時辰表	時辰表	時計、表	懷中、時計、表 金表	懷中時計	懷中時計 表	時計、鐘 表、懷中時計	時計、手錶 懷中時計、表	時計	金表、時計
clock		時辰鐘、 鐘表	時辰鐘、 鐘表機	時辰鐘、 自鳴鐘	時辰鐘、 自鳴鐘	時鐘、 時計	報時鐘、 自鳴鐘	時鐘、時計	時鐘、掛鐘 自鳴鐘	時計	時鐘
gramophone				留聲機器	留聲機器			一種留聲機器	留聲機器 留聲機器		
phonograph		留聲機器	留聲機器	留聲機器	留聲機器、錄音 留聲器、留聲器	留聲機	留聲器 留聲機器	留聲機	留聲機 留聲器	留聲機	留聲機
bicycle		腳踏車	腳踏車	腳踏車 二輪自由車	腳踏車 二輪自由車	二輪自由車 自由車	自由車、 腳踏車	腳踏車 二輪自由車	自由車(二輪的) 腳踏車、腳踏車	二輪腳踏車 自由車	自由車、 腳踏車
airplane										飛機	飛機
aeroplane				升空機器 飛艇	升空機器 飛艇	飛行艇 飛行機	飛行機	飛行機	空中飛行機 飛機	航空機 飛行機	
aircraft						航空具		氣球、飛艇及一切 航空機之總稱	航空機 (合飛機)	氣球、飛機 航空機	
airship				氣球船		飛艇		大飛行機	飛艇 空中船	飛艇	飛船
train		列車 (火車的)	列車 (火車的)	鐵路列車	列車、 串車、套車		列車	列車	列車、火車	列車	列車

automobile				自動車 汽車		自動車 摩托車	汽車	自動車	自動車	自動車 汽車	自動車
car	車、火輪車	車	車、鐵道車	車、火輪車、 汽車、鐵路車	有輪之車、積車 電氣昇降機之類	車	車、運貨車、電 自動車、摩托車	車、火車	車、電車 汽車	車、汽車 火車	
railway		} 火輪車路 } 鐵路	} 火輪車路 } 鐵路	鐵路	鐵道	鐵路、 鐵道	} 鐵路	鐵道、鐵路	鐵路、鐵道	鐵路、鐵道 軌道	鐵路、軌道
railroad				鐵路	鐵道、鐵路	鐵路、鐵道		特指、鐵路	V. 以鐵路運轉 - autocar 鐵路自動車	鐵路、鐵道	鐵路、軌道
telegram-(ph)	電報、電信 電報	電報、電信	電報、電信	電報、電信	電報、電信	電報、電信	電信、電報	電報、電信	電報、電信 通信機	電報、電信	電話機、 電波
telephone	傳話線、 德律風	電話機、德律風 德律風	傳話機、德律風 (用電話機傳話)	電話機、傳話 德律風	電話機	電話機、 德律風	電話機	電話機	傳話機、電話 電話	電話機	
news	消息、新聞	消息、新聞 新奇事	消息、新聞 新聞紙	消息、新聞	新聞、消息、 新奇之事物	新聞、消息	新聞	新聞	新聞、消息 新奇、信息	新聞、消息	新聞
gravitation	族向、偏向 索引	偏向中心、 向、動	吸引 重力、吸引力	對、吸引、 重力	引向、索引 重力	吸引力 他心吸引力	宇宙 引力、重力	引力、 重力	引向、吸引 重力	吸引、 自然吸引力	
matter	物質	物質	物質、材料	物質	物質	物質、物體	物質、質	物質	物體、實質	物質、物體 事件	
pencil	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	黑鉛筆	鉛筆①	鉛筆	鉛筆
level	水準	平準、平等 水平、水準(器)	平面、平準 水地	水平、平地、 水準儀	平、水平 水準	水平、 同高度水準儀	平面	水準儀	水平、高度	地平線、 水平面	平坦、水平器 高度
the Tropics	熱帶	熱帶	熱帶	二至線 熱帶	熱道、熱帶	熱道、熱帶	熱帶	熱帶	熱帶	熱帶地方	熱帶地方
the Frigid zone	寒帶	冰道	寒帶、寒道	寒帶、寒道	寒帶、寒道	寒帶		寒帶	寒帶		
essence	本質	質、本質、 精質	本質、物精、 心髓、真髓	本質、物之精 髓、真髓、影質	質、本質	本質、精靈 香味	物性	要素、本質	實在、本質	本質、要素 精靈、真髓、香水	要素、精、 香水
sports	} 運動	遊樂、遊戲、 戲劇、遊戲	遊樂、遊戲、 戲劇、遊戲	遊樂之草、 戶外遊戲	遊戲、娛樂 運動	娛樂之事	遊戲、玩耍	遊戲、運動	遊戲、遊技 運動	運動會	娛樂、 戶外運動
athletics		角力的、 強壯、壯健	角力的、 強壯	健身術、 體操、 斗技	健身術、 體操、 斗技	健身術、 體操、 斗技、 運動		運動術	運動術、 遊技、 運動會	競技、運動	強壯的 運動家
(bodily-) exercise		習練、操練、 運動	習練、操練、 工際	習練、操練、 用力	習練、運用 演習、 體操	運動、操練	身體之運動 習練、 教練	練習、操練	習練、 體操、 演習	實行、練習	練習、 實習 儀式
circulate	運轉	旋轉、環繞 運行、運轉	旋轉、環繞 運行	流通、 通行、 流行、 通用、 運行	運行、 流通、 流行	統行、 流通、 分播	周回運行	環行、 流傳	循環、 運行	循環、 流通、 傳播	循環、 巡回、 流動

operation		微工作、行動	微工作、行動	工作、行動運動	微運行、動作、運動		作用、用力	舉動、工作	動作、運動		
consequence	關係	閑繫、干繫	閑繫、干繫	關係、緊要	結果、閑繫	結果、緊要、關係、重大	結果之果、結果之果、結果之果	結果、緊要、結果、緊要	結果、效果、結果、效果	結果、推論、結果、推論	結果、重要、結果、重要
relation		屬、閑、干波	閑、干波、親戚、親戚	屬、干波、關係	關係、相關、閑連	關係、相關、涉及	關係、親戚	關係、閑連	關係、閑連	關係、親戚	關係、親戚
agree	投機	同心、和睦、和合、和睦、息和	同心、合意、和睦、協和	同心、合意	和衷共濟	同意、承諾、符合	同心	和同一致	相合、相投	同意、和合、訂合同	贊同、同意、符合、適宜
speculation		暗想、思想、謀、計	暗想、思想、謀、計	投機	投機	投機	投機	投機	投機	投機	投機
Art profession	工業	工業						工藝			
industry		百工、百藝、勤工	工業、勤勉、專心	工業、百工、工藝	工業、工藝、百工、百藝、勤工	勤勉、工業、工藝	勤勉、實業、工業	技能、專心、工業	農工業、實業	勤勉、勞力、實業	勤勉、誠實、勤勞、工業、產業
attraction	索引	相吸、相引、索引	吸引、攝力、索引之力	吸引、攝力、索引之力	相吸、相引、索引、吸力	吸引力、誘惑力、勸心	攝力	引力、吸引	吸引、引力	吸引、吸引力、引誘物	吸力、攝力
index		目、目錄、名目、條目、書目	目、目錄、條目、指數、食指	目錄、條目、(ical 索引)	指南、指引、目、目錄、索引	表示物、指針、索引、指數	目錄、索引	目錄、索引	索引	食指、指針、索引、指數	指示符、條目、指針、索引
brighten	發明	研光、磨亮、擦明、照	研光、磨亮、發光、晴朗	研光、磨亮、發光、晴朗	研光、擦明、發光、發明	使明朗、變為明亮			擦光、擦亮	磨亮、使光耀	發光、使明亮
invention		製作、原做、始做、創作之事	創作、思出	發明、創造、創作	創作、創造、發明	始創、發明、創造之物	發明	發見、發明	發明、創作、發明物	發見、發明力	發明
protect life	衛生	衛生、護生			衛生、護生						保護、防護
hygiene		保身學、衛生學	衛生學、衛生學	衛生學、衛生學	保身學、衛生學、衛生學、衛生學	衛生學、健康學	衛生學	衛生學	衛生學、攝生法	健康法、衛生學	衛生學、健康學
sanitation ~ary		衛生學	養身的、衛生的	養生的、衛生的	衛生、養生、衛生、衛生學	衛生、養生、衛生學	衛生	衛生、衛生學	養生、衛生、養生法、衛生法	衛生、養生	衛生學、養生法
statesmanship	經濟	政治家之才能、經濟	經世會、政治家	政治家之才能、治國之才、經濟	政治家之才能、治國之才	政治家	政治家	政治手腕、經世之才	政治手腕、經世之才	政治家之才、政治手腕	
economy		治家之道、節儉之道	家政、理財、法度、節用	家政、經濟、理財	家政、節用、經濟、理財	管理家務、內政、法則	家政、節約之管理	經濟、理財、家政、節約	經濟、節儉	節用、經濟	
~ics		治家之道、節儉之道	財學、經濟學、理財學、治家之道	經濟學、理財學	家政、治家學、理財學、經濟學		經濟學	經濟學、理財學、家政學			

ことが言えなくもない。特に、沈（1994）で取り上げられたく「英華字典」の訳語と「漢語外来詞詞典」で認定されている日本語借用語の3分類における差異などはかなりの程度で検証（実証）できるように思われる。

沈の3分類とは、

A類……日本の訳語とロブシャイドを中心とする「英華字典」の訳語が一致するもの。

B類……完全に同一ではないがある種の発生的関連性が認められるもの。

C類……日本の訳語と無関係なもの。つまり、日本語との関わりはない。

というものであるが、(A)類は「安定」しており、(B)類、(C)類での「転換」、つまり在華欧米人と中国人の手になる訳語から日本語からの影響を受ける過程がある程度、あるいは中国語の中でそれらがどのように定着していくかをある程度は見て取れるように思われる。

ただ、やはり「語彙の選択」というか「鑑定語」、「どの語彙を取り上げるか」ということが最大の問題であり、これについては更に今後の大きな課題として残されている。

(1994. 12. 20)

〈附記〉

本稿は関西大学東西学術研究所の例会報告（1994. 9. 28）および、中国近代語研究会第2回研究例会（愛知大学，1994. 10. 14）での研究発表を元に加筆，修正を加えたものである。

〈参考文献〉

沈国威（1994）『近代日中語彙交流史』（笠間書院）

汪家燊（1993）『清末至解放初的英漢詞典』（『出版史研究』第1号）

註

1) 中国語彙史における「近代」ということに関して、沈（1994）では、アヘン戦争（1840）以降1945年までを「近代語」として、さらに次のように区分している。

1840—1895……近代前期

1895—1919……近代後期（日本語語彙の大量流入期）

この「近代語」の区分については今後更に論議をする必要があろうが、特に近代前期

は、更に明治維新で2つに分けるべきではないかと思っている。つまり、日本語側からの影響が希薄な時期（1868まで）と、明治維新以降から日清戦争までの日本語語彙の影響が開始された時期である。

- 2) ここでもキリスト教と中国の近代化との関係が浮かび上がってくる。すなわち、中国の近代化、「西学東漸」の中心的な担い手は宣教師に代表される「キリスト教」であったと言うことである。
- 3) 「字林西報」は英文名を「Noruh China Daily News」と言い、1864年7月1日上海創刊の英字新聞。上海で最も歴史の長い影響の大きな新聞。1951年3月1日終刊（途中で停刊あり）。「捷報」は1894年7月2日創刊、1912年終刊。
- 4) この字典はその版權をめぐるアメリカの出版元から訴えられることになるが、結局は勝訴することになる。
- 5) 字典の編者達は常に新しい語彙の収集、改訂に努めていたことが、例えば以下の記述などからもうかがえるのである。

・英華合解辭彙増訂述略

(一) 漢文名稱之修正及採用略述如下：

- (甲) 名稱在原本編訂時已經確立而未採用者一律追改之如
Cast-iron 之應為生鐵 Musket 之應為毛瑟鎗 Typhoon 之應為颶風之類。
- (乙) 名稱在原本編訂時尚未確立而現已適用者一律採用之如
Discount 之為貼現 Kilometer 之為公里 Serum 之為血清之類。
- (丙) 增訂本新收之字之譯名以較為流行或適切者為準則如
Soviet 之譯為蘇維亞 Vitamine 之譯為唯他命之類。

(『增訂英華合解辭彙』1915)

- 6) 自転車の記述はたとえば『滬遊雜記』（光緒2年）などに見られる。